

のんた

25

山口の土地改良

vol.25

Nonta 2024

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう！

●巻頭特集

やまぐちの「農の偉業」探訪⑧

美祢市 秋吉台周辺

「里山」という

カルスト台地の

もう一つの顔

草刈場、ドリーネ畑、青い池の「やた」……

入選作品のご紹介

第24回食料・環境・ふるさと

写真コンテスト

入選おめでとう!!

「ふるさとの田んぼと水」

子ども絵画展2022

●特集II

誰もが共に活躍できる

社会の実現を目指して

～男女共同参画と土地改良事業～

●まんが

まんがで紹介する

土地改良のお仕事⑦

「里山」という カルスト台地の もう一つの顔 草刈場、ドリーネ畑、 青い池の「やた」……



取材・文：石井里津子

すり鉢状の起伏の底に見えるのが「ドリーネ畑」。くぼ地部分が平坦であり、水はけが良いことなどから利用されてきた。近くには山口県秋吉台青少年自然の家が建つ。ちなみに、ドリーネより規模が大きいものを「ウパーレ」といい、大きくくぼ地のなかの集落「江原ウパーレ集落」が知られている。ドリーネもウパーレも地表に水がないため、稲作は原則なされず、畑作のみだ。



ドリーネの底は丸く、その形のままに畑利用している。すごくかわいらしい農地だ

「やた」は里山！

「毎年2月の第3日曜日に山焼きをやった草原の景観を保っています。住民やボランティアによる火の管理です。昔から人が草を刈りに来ていた場所。かつては牛を使つての農耕ですから、草は餌でもあり、田畑に入れる肥料でもあり……」

今も利用する人はいます。1反の田んぼに草原1反分の草が必要です。今じゃ取り合いにはならないですが、以前は、集落単位で草場の持ち分ははっきりしていました」

ガイドの吉松さんが解説をしてくれる。ここが草刈場!?

一般的に草刈場は比較的標高の低い身近な場所にあるもの。観光地のイメージのせいから、暮らしから遠い場所と思いつている。標高を尋ねた。

「秋吉台の平均標高は250mです。最も高いところで425mです。ね」

「それじゃ里山といえますか、ふつうに雑木が生い茂るような……」

「そうです。原生林が残されています。向こうのこんもりとした森『長者ヶ森』です」吉松さんが指さす方向を見る。草原の

奥に深い緑の塊がある。保存されてきた一角だという。タブノキ、クスギ、ヤブニツケイなど、植生が約70種にも及ぶかなり立派な森らしい。それがこの本来の姿だ。秋吉台は、人が原生林を伐採し、草刈場を育て、現代へと続く毎年の山焼きによって広大な草原を維持してきた場所だった。

ちなみに日本三大カルストの残りの2つ、「四国カルスト」の標高は1000〜1500mとかなりの高地にあり、「北九州・平尾台」は370〜710mだ。秋吉台の標高200〜400m辺りというのは、まさに里山の標高を思わせる。

そのなかでも今注目しているのは、カルストならではの農地だ。「ドリーネ畑」「ドリーネ耕作」と呼ばれるカルスト台地特有のくぼ地の農地へ足を運んだ。

ドリーネ畑へ

長者ヶ森近くの駐車場で車を降り、カルストの遊歩道を歩き出す。長者ヶ森と同種の本々を県が植林保全している一角を抜けると、広大な草原の谷に迷い込んだかのようにだった。真っ青な空の下、こ

晴れた秋空の下、白く尖った岩々が、柔らかな起伏を帯びた緑の草原から幾つも顔を出している。山口県が誇る日本最大級のカルスト台地・秋吉台の展望台に立ち、雄大で開放的な眺めに身をゆだねる。この地下に鍾乳洞・秋芳洞の世界が広がっているというのだから、地球の営みは凄まじい。

「秋吉台は、何個の岩でできていると思いますか？」

案内をしてくれたMine秋吉台ジオパーク認定ジオガイドの吉松三男さんから突然のクイズが出た。広さは、約100km²の場所だ。

「1万? いや100万個でしょうか?」「いえいえ、1個ですよ!」

吉松さんが茶目つ気たっぷりに言う。

そうだ。ここはサンゴなどの死骸が堆積した、巨大な一つの石灰岩だ。約3億年前に遠く暖かな海でできた堆積物が、海洋プレートにのって大陸のほうへ移動し、陸にくっついて、ここに現れる。

羊の群れのような白い岩は、長年の雨水で溶け残った地表の出っ張りだ。そして地下の鍾乳洞は、巨大岩の腹のなか時間がかけて溶け、できあがったもの。石灰岩は二酸化炭素を含む水で溶ける――

。今回は、この石灰岩の性質が生み出す、秋吉台の農の希少価値を探していこう。

これは大陸の高原か、何処の海外か……と見まごう草原の乾いた起伏の底で、その農地はひっそりと点在していた。

白い岩が飾る広大な緑の丘陵のすり鉢状の底に、小さく丸い赤茶色をした畑がぽつんと見える。1つ、2つ、3つ、4つ……。ここに、そう数はない。

1940年代の調査では、秋吉台にこうした「ドリーネ畑」は、1583カ所という結果だったそうだが、今は数カ所という。

「ドリーネ」とは、石灰岩のくぼ地のこと。地元では昔から「くぼ地」と呼んできた。そこを畑にしたものは「くぼ畑」である。ガイドの吉松さんはこう話す。

「雨は、石灰岩を溶かしてドリーネへと集まり、そこから地下へ流れ落ちていきます。ドリーネの下には縦穴ができています。ですから地表に水はなく、農業自体は難しい場所です」

秋吉台の表土は、独特の赤褐色をした土壌だ。これは、石灰岩の溶け残った成分でできているといわれていた。だが、近年の研究の進展により、主に風に乗る大陸から運ばれた黄砂などが、長い年月をかけて積み重なってできたものであることがわかってきた。



長者ヶ森。言い伝えでは、世を逃れて移り住んだ豪族の館跡とも。井戸跡が残っているというが、高さ10数メートルを超える木々の森だ



ごぼう掘り作業。溝に入っているのは、ガイドの吉松さん。溝は重機で掘るが、ごぼう掘りは手作業で重労働だ

嫁にやってきた政子さん
政子さんの実家もごぼう農家だったの
だろうか。尋ねると、手を横に振る。

「ごぼう掘り体験をさせてもらった。2
人で一組。一人は「つく棒」と呼ぶ鉄製
のT字型の杭をごぼう手前の土中に指し、
腕に体重を乗せながら、ごぼうを溝の方
へ押す。
もう一人は、溝に降りて、ごぼうを丁
寧に引き抜く。が、土は重く、一筋縄で
はいかない。「息を止めて引つ張らん
と！」と政子さんの叱咤激励の声が飛ぶ。
慎重に引つ張らないと抜けきらないうち
に、ぱきと折れてしまうのだ。
ごぼうは「長さがないと商品にならない」
という。最も良い「特選」は65cmとのこと。
短くても30cmからだ。
こうして収穫されたごぼうは、「美東
ごぼう」というブランドで大人気である。
政子さんにおすすめの食べ方を聞くと
「天ぷら。かき揚げが一番おいしい。正
月には酢ごぼうやね」と返ってきた。

「嫁に来る前は、農業したことない。実
家は漁業で海苔やってた。学校卒業して
勤めて、漁業もやったことない。有明海
の海苔よ。熊本のこと」
失礼とは思いつつ、山口県のカルス
ト台地の農家と、有明海の漁業者の娘が
どうやったら出会うのか、知りたかった。
「いや恥ずかし。熊本の女の先輩が雑
誌で文通相手を山口県に見つけて。それ
がお父さんの職場の先輩。先輩同士が文
通やって、後輩をそれぞれ紹介したわ
け。先輩らは一緒にならなかったけどねえ。
結婚するまでこの畑は、見てない見て
ない。知つとる人は嫁には行かん。知ら
ん人が行く。結婚前に秋吉台に来たけど、
見てないよ。雪が降って積もってて。雪
に憧れたのよ。熊本はちらちらしかせん
もん。積もったまっさらな白い雪に足跡
つけて……。でも、今じゃ雪が大嫌いに
なった。雪降ったら、かかないかん」
政子さんは、実家から離れた地で子ど
も3人を育てながらドリーネ畑に出てき
た。かつては朝5時前から2トン車いっ
ぱいに白菜を積んで、独りで宇部へ出荷
もしてきた。あまりに疲れて、土手に乗
り上げてトラックをひっくり返したこと
もある。
既に成人した子どもたちは、農作業の
手伝いはするものの、継がないだろうと
話す。
ドリーネ畑に刻まれた人生にほんの少
し触れる。ここには古より、いつたいど
れだけの人生が刻まれているのだろう。
感謝と敬意がこみ上げてくる。深く頭を
下げた。



白水の池。中央に水神様が祀られている。秋芳町土地改良区事務局長の佐々木彰宣(あきのぶ)さんは、白水の池の水を利用し、農事組合法人「カルストの里」を立ち上げている。米を中心に麦、大豆。ほ場整備後の農地を活かし、法人が、同改良区内で7団体。農業が盛んなのも豊富できれいな水があるとのこと

白水の池と別府弁天池

ドリーネ畑を後にして、旧秋芳町にあ
る、白水の池と別府弁天池を訪ねた。白
水の池は秋吉台周辺に、別府弁天池は花
尾山に降った雨が地下へとしみ込み、そ
れらが再び地表へと湧き出で、神秘の色
を湛えた池を生みだしている。地球の営
みによるものであり、いずれも農用水
として地域の要でもある。
まず、白水の池へ。山際にあり、奥の
鍾乳洞から白濁した水が流れ込んでい
る。辺りは清涼感に満ち、池のなかには
水神様を祀る石の祠が建てられていた。
一方の別府弁天池は、池の底からこぼ
こぼと水が湧き、透き通った青い水を湛

えていた。コバルトブルーやエメラルド
グリーンに見えるその蒼さは、まさに神
秘的だ。これは、水に含まれた石灰分が
透過する数々の光の色を吸収し、わたし
たちの眼に青のみを留めて見せるためだ。
このミネラル豊富な水が作物を美味しく
するという。
ドリーネ畑がある旧美東町はごぼうで有
名だが、白水の池や別府弁天池がある旧秋
芳町の特産は梨。収穫シーズンになると、
あつという間に売り切れになる。水はけの
良い土壌で育つ梨はとにかく甘いのだ。
秋芳町土地改良区の事務所まで話をうか
がった。理事で、別府地区で農業を営む
飯田晃さん72歳が、弁天池から流れる用
水路について教えてくれた。



Mine秋吉台ジオパークセンター「カルスター」内にて、認定ガイドの吉松三男さん(右)と、美祿市教育委員会事務局世界ジオパーク推進課専門員の小原北士さん(左)。小原さんには、本記事全体を通し、最新知見による助言をいただいた。御礼申し上げます。



宅間政子さん。「えらくて嫌だったけれど、子どももいて、熊本には帰らんかった」と言う。お父さんのことを尋ねると「まあまあ男前やったからね」と恥ずかしそうに肩をすくめる素敵な女性



2023年10月14日に山口県秋吉台青少年自然の家が主催した「ドリーネ畑でごぼう掘り」のようす。中央で指導しているのが、宅間恒雄さん(撮影:水土里ネット山口)



政子さんが、ごぼうのなかを割って見せてくれた。なかには輪っか状に筋が入るものも

丸い畑のなか、作業をする一台のシヨ
ベルカーが見えた。
草原の丘をどんどん下り、すり鉢の底
に辿り着く。畑はグラススキーでも楽
しめそうな緑の斜面にぐるりと囲まれ
ている。
暗赤褐色をした畑のなか、手前から
奥へと植えられたごぼうの畝に沿って、
長く深い溝が掘られていた。人が腰や胸

ドリーネ畑の政子さん

「前はトレンチャー(掘削機)で掘ってた。
昭和47年に嫁に来たけど、そのころは熊
手で1本ずつ掘ってやりよった。えら
かった(きつかった)。くえる(崩れる)
から深掘りしてねえ。ずっとお父さんは
勤め人じゃったから、ここはじいちゃん
ばあちゃんとなつたの3人。重機の免許
は40代で取つたよ。50になる前にお父さ
んと一緒にね」

この日、夫の恒雄さんは通院の日で姿
はなかったが、定年後はふたりで畑に出
てきた。
一見ごろごろとした暗赤褐色の土に触
れてみる。ごわつと固い。しかも重い。
粘土質とはいえ、柔らかい粘りではなく、
どこか、ごわごわとした野趣溢れる手触
りだ。この土の圧力で作物は押されなが
らゆつくりと育つ。ごぼうであれば、き
め細かで柔らかくなる。一方、重く固い
土は手強く、働く者の肉体への負荷も半
端ではない。

ブランド・美東ごぼう

「ごぼうは連作がならん。連作障害が
あつて、最低4年は空ける。長く空けた
ほうが、なが黒くならんのよ。ごぼ
うばかり作ると、海苔巻きみたいになか
が黒くなる」
畑の横にうつちやられていた、先日
掘つたと思われるごぼうを拾い、なかを
割りながら政子さんが言う。ぽきと割
ると、白いごぼうのなかに黒いわつかが
できているものがあつた。
ドリーネ畑は、ごぼうや里芋など根菜
類が多いそう。ごぼうは水のないこの
地に適している一方、里芋は水を好むだ
けに水を逃がさない工夫が必要だ。
「4年に1回、ごぼうにするのがちよう
どいい。里芋や家庭用の大根を植えたり、
肥料になるから牧草を植えたり。里芋の
ときは絶対、草を入れないかん。草で、
カヤで湿気を保つ。植えてから草で覆う。
土が乾かんようにするためよ」
畑には周囲の草を刈って漉き込むのだ
そう。そうすると翌年、土が「優しくなる」
という。先祖代々、おそらく気が遠くな
るような昔から手刈りで大量の草を漉き
込みながら土を作ってきたのである。



山口県知事賞
『出荷準備の初夏』 山口市秋穂二島
 内山省三 (山口市)
 たまねぎ生産地の山口市秋穂二島で、収穫を終え、倉庫につられたたまねぎの出荷準備をする女性を撮影しました。



山口県地球人会議会長賞
『棚田を繋ぐ』 岩国市錦町上沼田
 西村 勇 (岩国市)
 食料創作の歴史、苦勞が分かる稲作の歴史・豊富になった現在では忘れられようとしています。自然との調和で存在する食の保全・携わる方々に敬意を表します。

第24回
食料・環境「水・土・人・暮らし」
ふるさと写真コンテスト
 一般の部
 入賞作品のご紹介



山口県内の農山漁村の良さを再発見していただくとうと「水・土・人・暮らし」をテーマに、平成11年度から始まった「食料・環境・ふるさと写真コンテスト」24回目を迎えた昨年度は、8月から12月にかけて募集を行ない、県下各地から農山漁村の風景や生き物人々の営み、伝統文化などを撮った523点の作品の応募がありました。

すばらしい自然や文化が数多く残る農山漁村は、まさに私たちの、そして生き物たちの心通うかけがえのないやすらぎの地、次世代に残していきたい宝です。入賞作品23点をご紹介します。



井手川(水路)の分水地点にある「やた」。細い笹を束にして、かざらで縛る。これで水路を塞いで水量を調整する。一ノ井手川(写真中心)の幅は、約1.5m、二ノ井手川は50cmの幅だそう

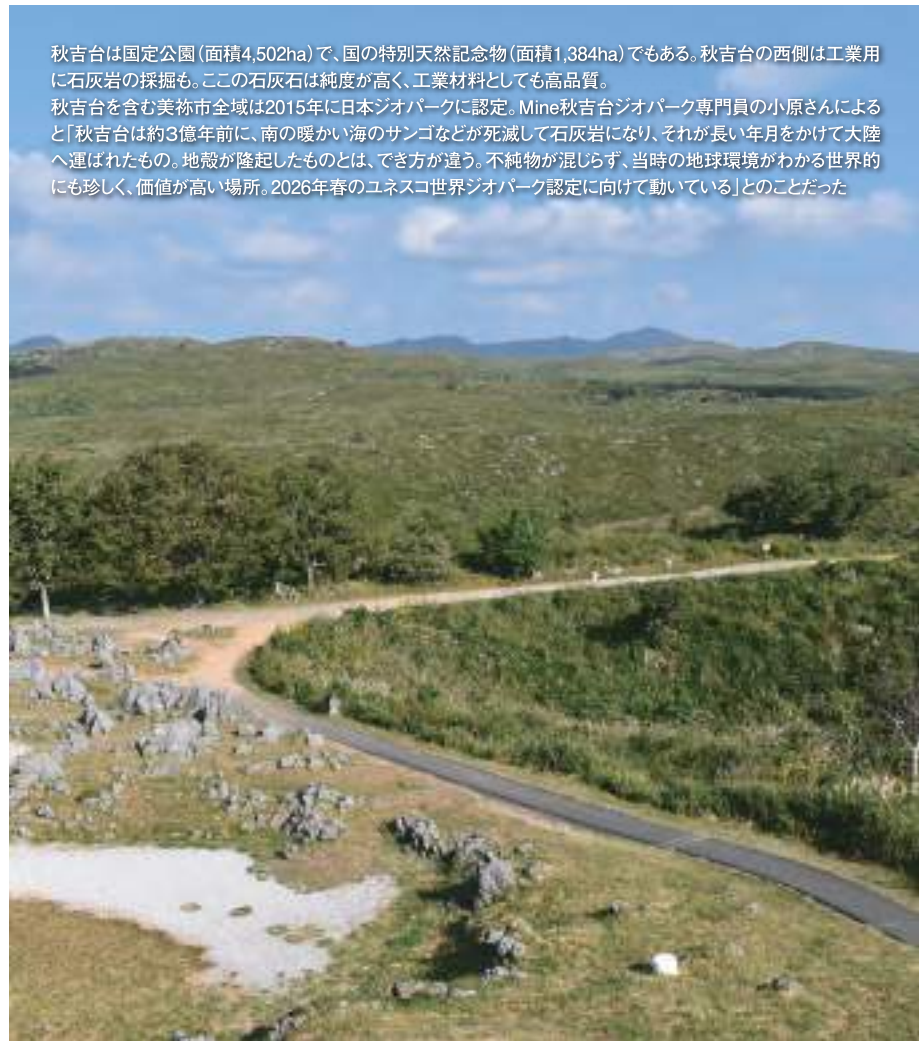
「弁天池からは、一ノ井手川から五ノ井手川まで出ています。一ノ井手川から二ノ井手川が分かれていますが、ここは今も昔ながらの「やた」で水を調整していますよ」

別府弁天池の一带は、別府厳島神社の境内となっている。その一角に分水地点があり、そこに葉を除いた細笹の大きな束が横たえてあった。水はそのわずかな間を通る。かつてはどの分水地点でも「やた」で水路を塞ぎ、流す水の量を調整していたという。だが今は、弁天池そばの「一ノ井手」と、「二ノ井手」の2カ所のみだ。「やた」は5月15日に設置して、1年間そのまま。誰も触ってはいけないんです」

しかも井手の水は、生活用水だと飯田さんは言う。井手川に面して洗い場が設けてあり、今も野菜などの農作物を洗っているのだとか。とはいいが、決して水が豊富にあったわけではない。昔から地区間での水争いははげしく、細かい水利慣行が敷かれてきた。「やた」はその象徴的存在でもあり、地元は、農地整備後も伝統の知恵を2カ所だけでも残すことを望んだのである。

最後に秋吉台に建立されている塔の話をして締めくくろう。1957(昭和32)年、秋吉台のなかに「平和と観光の塔」が建立された。ガイドの吉松さんはこう話す。「秋吉台には明治から終戦まで旧陸軍の演習場があり、戦後11年間は連合軍の演習場でした。1955年に米軍から在日米海軍航空部隊による対地爆撃演習地にした旨の申し入れがあり、それに地元は猛反対し、秋吉台の価値を訴え、ここを守る運動が起きたのです」

その結果、今の秋吉台がある。専門家とともに住民たちの力で、古からの里山



秋吉台は国定公園(面積4,502ha)で、国の特別天然記念物(面積1,384ha)でもある。秋吉台の西側は工業用に石灰岩の採掘も。この石灰岩は純度が高く、工業材料としても高品質。秋吉台を含む美祿市全域は2015年に日本ジオパークに認定。Mine秋吉台ジオパーク専門員の小原さんによると「秋吉台は約3億年前に、南の暖かい海のサンゴなどが死滅して石灰岩になり、それが長い年月をかけて大陸へ運ばれたもの。地殻が隆起したものは、でき方が違う。不純物が混じらず、当時の地球環境がわかる世界的にも珍しく、価値が高い場所。2026年春のユネスコ世界ジオパーク認定に向けて動いている」とのことだった

空間を守ったのだ。そんな伝統がここにはある。

今も続く山焼きもその一つだろう。自分たちで風景を作り守る伝統だ。今後は「ドリーネ耕作」も守っていけるだろうか。もはや耕作地が数カ所となったドリーネ畑は、秋吉台ならではの耕土なのだから。今や、ビルの一室の電光で野菜が育つ時代だが、それだけに、人類が地球のダイナミズムのなかで育んだ農業を忘れてはならないと思えた。



秋芳町土地改良区がある美祿市の支所前で、理事の飯田晃さん(右)と事務局長の佐々木彰宣さん(左)。「地域の子どもはもう以前の10分の1に減ってしまった」と、飯田さんが話していたのも印象的



『湯本南条踊 奉納』 長門湯本温泉 (大寧寺) 嶋原範明 (光市)

400年以上の歴史を誇る長門湯本の奉納神事式祭りの一コマです。勇壮で力強い踊りに感動させられました。



『里山の家族』 下関市豊田町 河野サエ子 (下関市)

牛の放牧と稲穂のはせ掛けの農村風景の中、ほのぼのとした家族を撮影しました。



『爆笑演奏会』 常盤公園 林 良子 (宇部市)

菜の花畑で演奏会の練習。3人の笑顔と笑い声でより一層楽しい演奏会となりました。青空・菜の花 自然の美しさを共有できる開かな風景。いつまでも続いてほしいです。



『じねんじょ種芋の取り入れ。』 熊毛郡田布施町 木村一雄 (柳井市)

自然薯の栽培が各地でさかになって欲しい。



『伝統を守る』 山口市阿知須 井上 守 (防府市)

正月明けより吊した大根を2~3週間毎にプレスするそうです。作業風景を撮らせて貰いました。



第24回

食料・環境「水・土・人・暮らし」 ふるさと写真コンテスト

入賞作品のご紹介



水土里ネット山口会長賞

『持てたよ!』 下関市豊田町 政村 茂 (下関市)

女の子が重そうに芋を持った。大量の喜びが顔に出ている。



『豊作を祈って』 周南市大潮 山本博文 (下松市)

大潮平野で田植作業をされる風景です。



『大物が獲れたぞ』 長門市通 黒木丸生 (下関市)

長門市通のくじらまつりの一コマです。最後にくじらを引き上げる時の様子です。



『芳ばしい海の幸』 萩市浜崎 大井幸枝 (萩市)

海風になびく干しわかめで風を表現し、人を点景にして生活観を出しました。



山口新聞社賞

『楽しい稲刈り』 吉部小学校近くの田 村田利子 (宇部市)

吉部小学校の稲刈りは地元の方々の協力もありハザ掛け・稲刈りを学校の行事にされています。おばあちゃんとの稲刈りはたのしいひとときです。



『雲海下の耕地』 山口市阿東嘉年十種ヶ峰林道 桑原一紘 (山口市)

雲海が晴れ収穫後の水田が見られた。



『補植終えて』 周南市中須北 岡本公一 (山口市)

田植えを終えた後の植継苗を夕方に終えて家族の待つ自宅へ帰る所でした。おつかれ様です。



中国新聞防長本社賞

『カモメ舞うじゃこ漁』 大島郡周防大島町久賀 吉光佑二 (周南市)

安芸灘で二隻の漁船でのじゃこ漁です。カモメが飛び交う様子が活気もあり珍しくて撮りました。



Congratulations!!

＼ 入賞おめでとう!! /

「未来へつなごう！ ふるさとの水土里」 子ども絵画展2022

主催：全国水土里ネット・都道府県水土里ネット

水土里ネット（土地改良事業団体連合会）では、子どもたちに水の循環や環境保全への理解を促すことを目的として、子ども絵画展を毎年開催しています。23回目を迎えた2022年から、さらに広く次世代に伝えていこうという思いを込めて、名称を「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展」に変更しました。全国から2,993点の作品が寄せられ、山口県からは2名の方が入賞されました。おめでとうございます！！



水土里ネット山口 会長賞
「なすびさんこんにちは！」
のりちか まほ
山口市立宮野小学校2年 則近 菜帆さん



KAJIMA 100年のみどり賞
「おいしいお米をありがとう」
しみず せいた
山口市立宮野小学校4年 清水 星汰さん

※学校名、学年は受賞当時のものです。



入賞
『アマサギだ！
今日はここでえさとりかな？』
防府市台道
田中大理（山口市・小学5年）



アマサギはとてもきれいなサギの仲間で田んぼがとても似合います。写真に撮ってみてやっぱりきれいだなと思いました。



『ああ…やられた』
維新公園
橋本 拓（山口市・小学4年）

友だちと川で魚をとっていると、いつのまにかシラサギがやってきて、つかまえた魚を食べているところです。ぼくたちは、おどろいてぼうぜんとしていました。



『大好きなりんごを丸かじり!!』
山口市阿東徳佐
平佐田 樹（下松市・小学4年）
りんごがまるでマジックのように宙に浮いたよ!!

『My brother love MIKAN』
家
山本理久（柳井市・中学1年）
弟がみかんをもらってうれしそうだったので、写真をとりました。



主催／食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議
山口県・水土里ネット山口
後援／山口新聞社・中国新聞防長本社
※学年は受賞当時のものです。



山口県地球人会議会長賞
『きらきら』
近くの田んぼ
植村康平（下関市・小学4年）
霜の降りた朝に、タンポポの綿毛がきれいだった。



優秀賞
『ナベヅルのふるさと』
周南市八代
大谷大翔（防府市・小学6年）

自然が広がる静かな田んぼに里帰りしてきたナベヅルがほほえましくて写しました。



『無題』
じいちゃんのはたけ
村上蒼虎（山口市・小学5年）
そだっていたから。

『おっきな梨がとれた』
豊田農業公園みのりの丘
植村亮介（下関市・小学1年）
みんなで梨がりに行って、楽しかった。

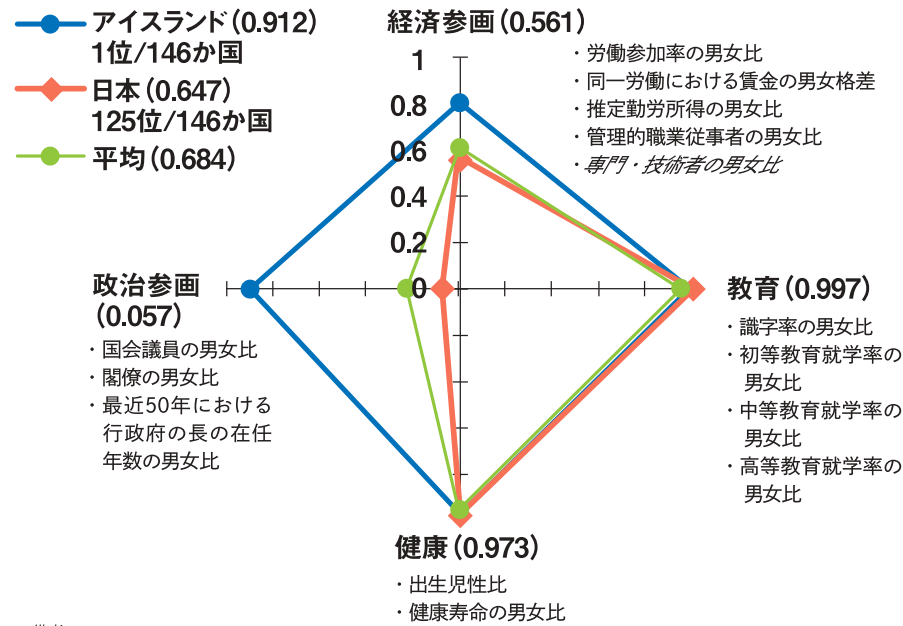


児童・生徒の部

ジェンダー・ギャップ指数 (GII) 2023年

スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が公表。男性に対する女性の割合(女性の数値/男性の数値)を示しており、0が完全平等、1が完全平等。

日本は146か国中125位。「教育」と「健康」の値は世界トップクラスだが、「政治」と「経済」の値が低い。



順位	国名	値
1	アイスランド	0.912
2	ノルウェー	0.879
3	フィンランド	0.863
4	ニュージーランド	0.856
5	スウェーデン	0.815
6	ドイツ	0.815
15	英国	0.792
30	カナダ	0.770
40	フランス	0.756
43	アメリカ	0.748
79	イタリア	0.705
102	マレーシア	0.682
105	韓国	0.680
107	中国	0.678
124	モルディブ	0.649
125	日本	0.647
126	ヨルダン	0.646
127	インド	0.643

備考
1 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2023)」より作成
2 日本の数値がカウントされていない項目はイタリックで記載
3 分野別の順位: 経済 (123位)、教育 (47位)、健康 (59位)、政治 (138位)

出典: 内閣府男女共同参画局ホームページ
(https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shiyo/index.html)

国は、「第5次男女共同参画基本計画」において、「2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30%程度となるよう目指して取組を進める」とし、その水準は通過点であるとしています。

同計画内で地域農業に大きな影響力を持つ、農業委員、農業協同組合役員、土地改良区(土地改良区連合含む)理事についても、期限と成果目標が設定されています。

国は、「土地改良区の理事に占める女性の割合」を2025年度に10%以上」という目標を掲げているところですが、2023年度末における全国平均は0.8%となっています。

2025年度に女性理事10%以上

土地改良区(土地改良区連合含む)理事に占める女性割合の成果目標

- 女性理事が登用されていない組織数ゼロ
- 理事に占める女性の割合10%

(いずれも2025年度までに)

多様性を尊重する男女共同参画の取組を推進することは、多角的な視点による土地改良区運営、ひいては土地改良区等の組織運営の体制強化、運営基盤の強化につながります。「新時代にふさわしい土地改良団体の創造」という高志を、現実のものにしていきましょう。

指導的地位に占める女性の割合を拡大

国は、第5次男女共同参画基本計画において、「2020年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が30%程度となるよう目指して取組を進める」とし、その水準は通過点であるとしています。

同計画内で地域農業に大きな影響力を持つ、農業委員、農業協同組合役員、土地改良区(土地改良区連合含む)理事についても、期限と成果目標が設定されています。

日本における男女共同参画のあゆみ

1946年 女性初の参政権行使

戦後初めての衆議院議員総選挙が行われ、約1,380万人の女性が初めて投票し、39名の女性衆議院議員が誕生。

1986年 男女雇用機会均等法施行

雇用における男女の均等な機会・待遇の確保を目的とした法律を制定。

1999年 男女共同参画社会基本法施行

男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的とする法律。

2016年 女性活躍推進法施行

正式名称は「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」。10年間の時限立法として施行。

誰もが共に活躍できる社会の実現を目指して

男女共同参画と土地改良事業

人生100年時代を迎え、我が国における家族の姿は変化し、人生は多様化しています。また、コロナ禍をきっかけに多様な働き方が社会全体に浸透しつつあります。そうしたなか、深刻化する少子化・人口減少に対応するためには、性別にかかわらず全ての人が個性や能力を發揮し、いきいきと活躍できる社会を実現することが求められています。

そうした背景を受けて、農林水産省では、女性が農林水産業の重要な担い手として、より一層能力を發揮していくことを促進するために、毎年3月10日を「農山漁村女性の日」と設定しています。

男女共同参画社会とは

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のこと。(男女共同参画社会基本法第2条より抜粋)

ジェンダーとは

一般的にジェンダーは、生物学的な性差に付加された「男性だから・女性だからこうあるべき」というような社会的・文化的な性別をさします。

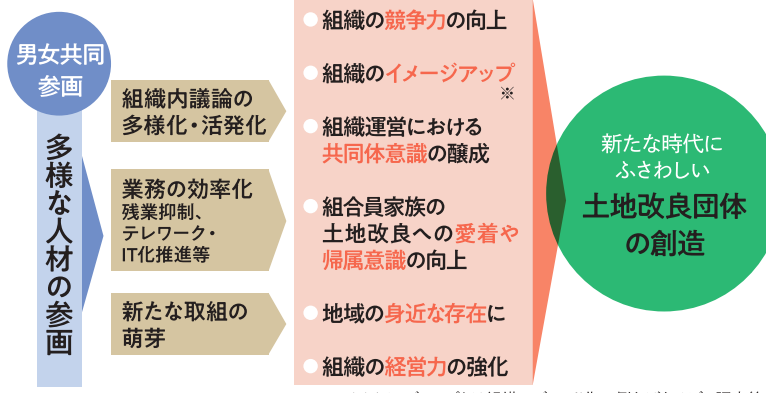
その性別によって生じている格差を意味する言葉、それがジェンダー・ギャップです。

ジェンダー・ギャップ指数における日本の順位 125位/146カ国

2023年6月に公表されたジェンダー・ギャップ指数の順位によると、日本は、G7各国(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、アメリカ)のなかでも最下位となっています。

「ジェンダーの平等と女性のエンパワメント」はSDGsの重要なテーマで、また日本では「男女共同参画社会基本法」で21世紀の最重要課題となっています(内閣府男女共同参画局「SDGsとジェンダー平等に関する副教材」より一部抜粋)が、まだまだ課題は多くあるようです。

人材の多様化が組織の活性化につながります。



出典: 全国土地改良区団体連合会 ホームページ「土地改良区における男女共同参画について」
(<https://www.inakajin.or.jp/websys/wp-content/uploads/2023/09/男女共同参画基本事項等.pdf>)

多様な人材が活躍する農業・農村の確立 ~山口県の取組~

山口県は、「第5次山口県男女共同参画基本計画」に基づき、社会の幅広い分野において男女共同参画の取組を総合的に進めており、推進状況と施策を「山口県男女共同参画白書」としてまとめ、毎年公表しています。そうしたなか、農業分野においても、女性の参画拡大を進めるための環境や体制の整備に力を入れています。

- 女性が輝く農林水産業づくり推進事業
- 生活改善士活動促進事業
- 農林漁業女子ステキスタイル応援事業

【農林水産政策課】

工事契約単価の上昇

- ウッドショック・アイアンショックによる資材の高騰
- 円安に伴う輸入資材・電気料金の高騰
- 半導体不足
- 人件費の高騰



そんな状況の中 事業を計画的に
推進していくため

予算確保に向け 団結して取り組もう!!



参議院議員
宮崎雅夫

参議院議員
進藤金日子

山口県知事
村岡嗣政

山口県土地改良事業
団体連合会会長
北村経夫

あれ？
この農道の
舗装工事
途中までしか
終わってない!?

今年終わる
面工事が来年まで
延びるそうよ!
新しいほ場での
営農ができないわ

私たちに多くの恵みをもたらす農業
その活動を支援する
あらゆる整備事業が停滞中!
一体なにがおこっているのか...!?

ウクライナ危機・コロナウィルス蔓延
今もなお世界を取り巻く災禍は
日本の食料・農業にも大きな打撃を与えました...

のんた Photo Column



【ドジョウ】

田んぼや畑は、カエルやドジョウなど、多くの生き物のすみかになっています。

ドジョウは、田植えが始まる頃に水路をのぼって田んぼに入って産卵します。産卵したドジョウはすぐには水路にはもどりません。田んぼはドジョウにとって産卵場所であるだけでなく、快適な暮らしの場だからです。田んぼには、エサとなるミジンコやアカムシなどが多く生息しています。また、やわらかい泥にもぐれば、サギなどの天敵から身を隠すこともできます。稲刈り前、田んぼの水が落とされると、多くのドジョウは水路にもどりますが、そのまま湿った田んぼの土の中にもぐって冬を越すドジョウもいます。

ドジョウは、他の生き物の食べ残しや水草を食べ、水質を良くしてくれるだけでなく、卵や稚魚はゲンゴロウやヤゴ（トンボの幼虫）などの昆虫の食料になります。その昆虫をカエルが食べ、そのカエルをヘビが食べ、そのヘビを猛禽類が食べます。農業生産が継続的に行われることによって、このような食物連鎖が成り立ち、豊かな生態系が保たれているのです。

発行

食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市糸米二丁目13番35号 水土里ネット山口 山口県土地改良事業団体連合会内
TEL:083-933-0033 FAX:083-933-0048 URL:<https://www.yamadoren.or.jp/>

